

竜山内科リハビリテーション病院
Dr.岩本に聞く!



The Interview of the Doctor

慢性期の誤嚥性肺炎と呼吸不全は
リハビリを取り入れた治療で改善を

誤嚥性肺炎と呼吸不全は、高齢者に多く、進行すると命に関わることもある呼吸器系の病気です。いずれも慢性期であれば、リハビリテーションを取り入れた治療で生活の質を向上することが可能です。竜山内科リハビリテーション病院の岩本範博先生にお聞きしました。

高齢者に多い誤嚥性肺炎
嚥下訓練や口腔ケアで再発予防を

—誤嚥性肺炎について教えてください。

岩本 高齢や脳疾患が原因により、食べ物を飲み込む嚥下機能が低下し、食べ物や口腔内の分泌物が誤って気管支に入ること、誤嚥と言います。この誤嚥により、細菌や分泌物が肺に入り増殖し、肺炎を引き起こすのが誤嚥性肺炎です。通常は発熱やせきなどの症状がありますが、これらの症状を伴わず、酸素が低下して呼吸不全に陥ることもあります。重症化して命にも関わることも少なくありません。

—治療法について教えてください。

岩本 急性期には、抗生物質により肺炎の原因となる細菌をコントロールします。慢性期の治療としては、投薬と同時に嚥下機能を向上させることが大切です。まず言語聴覚士が嚥下機能を評価して、必要があれば造影検査を行います。嚥下機能が低下している場合は、栄養士と相談しながら飲み込みやすい食事にします。必要に応じて歯科治療を含む口腔ケアを行います。

—予防はできますか？

岩本 誤嚥性肺炎は再発を繰り返す傾向があり、嚥下訓練などのリハビリを行い、再発を防ぐことが大切です。また日常の基本的な生活動作や口腔内を清潔にしておくこと、禁煙なども予防につながります。

呼吸不全は
呼吸リハビリや酸素療法で
QOL(生活の質)を向上

—高齢者の呼吸不全についてはどう
でしょう。



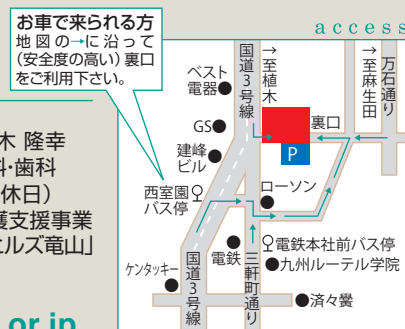
竜山内科
リハビリテーション病院
院長補佐・呼吸器内科医師
岩本 範博氏

・熊本大学大学院医学研究科修了
・日本内科学会認定総合内科専門医

岩本 呼吸機能が低下し、必要な酸素を全身に送れなくなった状態を呼吸不全と言います。高齢者の場合、喫煙による肺気腫や若い頃の肺結核が原因となつて、呼吸不全になる方がいらつしやいます。最初は、階段を上ったりする時に息が苦しくなる程度ですが、ひどくなると酸素を供給しないと生命の維持ができなくなります。早期に発見し、治療を行うことが大切な病気です。

—診断と治療について教えてください。

岩本 まず、血液中の酸素濃度の測定やレントゲン、肺機能検査により診断します。呼吸不全と診断されたら、必要に応じて呼吸リハビリテーション、酸素療法、投薬などの治療を行います。呼吸リハビリでは、歩行テストによる評価をもとに、腹式呼吸や筋力アップのトレーニングを並行して行うことが有効です。在宅酸素療法を取り入れた通院治療も可能ですが、風邪を引いたり肺炎を併発したりして急性度が高くなると、入院が必要な場合もあります。慢性疾患が原因で、最終的には呼吸不全になることもあります。重症化しないためにも、早期発見と治療によりQOL(生活の質)を改善することが大切です。若い頃に喫煙の習慣があり、息切れなどの症状がある方は、早めに受診されることをお勧めします。



お車で来られる方
地図の→に沿って
(安全度の高い)裏口
をご利用下さい。

(財)日本医療機能評価機構ver.5.0認定病院

医療法人 山部会
竜山内科リハビリテーション病院

理事長/山部英則
院長/本田 喬 院長補佐/清原英雄 増田武信 杉之原賢治 松山公三郎、岩本範博 副院長/青木 隆幸
診療科目/内科・循環器内科・消化器内科・代謝内科・神経内科・呼吸器内科・リハビリテーション科・放射線科・歯科
診療時間/9:00~12:30/13:30~17:30(月曜~金曜) 9:00~12:30(土曜) 休診日(日曜、祝休日)
居宅・介護サービス/●通所リハビリ ●訪問リハビリ ●訪問看護 ●訪問介護 ●訪問診療 ●居宅介護支援事業
●訪問歯科 ●グループホーム「響き」 ●住宅型有料老人ホーム「メディケアホーム ヒルズ竜山」
本館/南館/遊水公園、デイサービスヒルズ竜山遊水公園
その他/●人間ドック ●各種健診 ●無料出前講座 ●介護職員初任者研修機関
〒861-8072 熊本市北区室園町10-17 TEL:096-344-3311 http://www.ryuzan.or.jp